

## 附 帯 意 見

### 報告第1号（北海道一般会計及び特別会計歳入歳出決算）

1．道政史上初めて4億2800万円の赤字決算となったことは、遺憾である。道税や貸付金、使用料、手数料の未納額が約288億円、不納欠損額が約24億円に上っており、経済雇用対策を図るとともに、収納対策に全庁挙げて全力で取り組むべきである。

また、行財政改革の推進に当たっては、スピード感を持って取り組むこと。

### 報告第2号（北海道病院事業会計決算）

1．道立病院の経営は、累積欠損金が年々増加し、593億円を超える結果となった。僻地における広域医療や精神、結核医療といった不採算部門を担っているとはいえ、入院、外来患者数は年々減少しており、予算と決算額にも大きな乖離があることから、医師の確保など十分な医療体制の整備を図りながら、さらなる収益の確保に努めるべきである。

また、病床規模の適正化や個人医業未収金の解消、不用資産の処分などに早急に取り組むべきである。

なお、今後の運営形態などについては、北海道病院事業に関する次期計画検討協議会や地元の意見などを踏まえ、「次期計画」の策定にあわせ検討すべきである。

### 報告第3号（北海道電気事業会計決算）

1．道営電気事業については、「道営電気事業のあり方検討委員会」の意見等を踏まえ、民間譲渡の可能性を含め、そのあり方について早期に検討すること。

### 報告第4号（北海道工業用水道事業会計決算）

1．工業用水道事業については、未稼働資産の整理によって経営健全化に向けて一步前進できる見通しが出てきたが、石狩湾新港地域工業用水道事業については、依然として契約水量と給水能力日量の差が大きいことから、関係機関と連携し、経営の改善に全力を挙げて取り組むべきである。